

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ひらがなの読み書き」と「書くこと」の指導が終わり、ひらがなを使っての表現ができるようになった。しかし、長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の使い方については指導が不足しており、理解が不十分である。</li> <li>関心、意欲、態度の面では、他人の話に関心をもって最後まで聞く態度が定着していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書や読み聞かせを通して語彙の充実を図るとともに、他教科でも文章を書く活動を多く設定し、正しい表記ができるように繰り返し指導する。</li> <li>聞き方のポイント「きき方上手のあいいうえお」を掲示し、それを意識させるとともに、相手の発言を受けて話をつなぐことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日記や作文を宿題に取り入れ、順序立てて、したことや考えたこと、感じたことを書く活動を日常的に位置付ける。</li> <li>朝の会・帰りの会のスピーチで、したことや思ったことを発表したり、それについて質問したりすることを通して、互いの話に関心をもち、伝え合う力を高める。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の学習については、1日2字ずつ丁寧に書く、漢字は部首の組み合わせであることを知る、習った漢字を使った言葉を集める、既習の漢字は文章の中で使うことを徹底する、等の指導を行っているが、定着が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字に関心をもたせるような指導を継続・工夫する。</li> <li>モジュールの時間や隙間の時間に、漢字テストを活用した反復学習を行い、定着を図る。</li> <li>黒板やホワイトボードを使って漢字を大きく書き、辺や画数に意識を集中させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせやブックトークなど図書時間を充実させ、様々な本に関心をもたせたり、隙間の時間に読書できるように環境を整えたりし、文字・漢字にふれる機会を増やす。</li> <li>主語述語を意識して短文を作る練習をする。その際既習の漢字を使うよう指導する。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>事柄を順序だてて書く、事柄に対して自分の感想や考えを書くということが難しい児童が多い。文を書くことに慣れておらず、何を書くかを決めることもできない児童がおり、個別指導もあまり効果がない。</li> <li>漢字の練習やミニテストを繰り返し行ってきたが、定着していない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で文章を書く機会を多くつくり、文章の組み立てや表現の仕方などを繰り返し指導し、定着を図る。</li> <li>漢字の復習を繰り返し行う。漢字テストでは、目標値を設定し、目標達成まで繰り返し取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書いた文章をお互いに読み合い、校正したり、感想を伝え合ったりする。また、週1回家庭学習で書いた作文を紹介し合い、書き方の良いところを学び合うようにする。</li> <li>1、2年の漢字が定着していない児童には、個別に課題を出し、取り組ませる。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>書くことに苦手意識を感じる児童が多いので、文章の表現方法を指導した。筋道を立てて書く方法を定着させることで、書くことへの抵抗を減らすよう図ったが、十分ではない。</li> <li>漢字の学習は毎日2字ずつ練習し、毎日小テストを行っている。個人差が大きく、全員に定着させるまでには至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の授業の中で、文章を書く場面を多く取り入れる。文章の書き方や表現の様々な方法を指導する。さらに、書いた文章を読み直して、校正するように促す。</li> <li>漢字の学習の先生役を児童にさせることによって、主体的な学習への意欲を高める。小テストを今後も継続して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書いた文章をお互いに読み合い、校正したり、感想を伝え合ったりする機会を多く設ける。</li> <li>漢字学習の時に、自分なりに発展して調べてきたり、ノートにまとめてきたりした児童を認め、全体に紹介し、自主的な学習意欲を喚起させる。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の定着を図るため家庭学習や小テストを行ってきたが、個人差が大きく、個別の課題や指導が必要である。また正しく読み書きできない熟語もあるので、漢字の使い方について幅を広げていく必要がある。</li> <li>目的に応じた文章の書き方や表現の工夫について、効果を上げるために、より細やかな指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の部首や共通な部分に着目させ、音訓読みや書き順の指導を丁寧にを行うとともに、同音同訓異義語、ことわざなどの学習を行っていく。</li> <li>修飾語の関係や接続詞、助詞など文を構成する要素に気を付けながら文章を書くことを意識させ、文意の通る表現や組み立て方を指導していくとともに、自分で書いた文を読み返す習慣をつけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習った漢字を使っての熟語、短文づくりを行う。</li> <li>意味の分からない言葉は、辞書を引いて自ら調べる習慣をつけさせる。</li> <li>読書環境を整え、様々なジャンルの本を紹介し、空いた時間での読書を推奨していく。</li> <li>音読や暗唱を家庭学習で行う。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの問題で目標値を5ポイント以上上回っているの、指導方法は概ね良好と言っているのではないかと考えられる。</li> <li>作文はわずかながら目標値を下回っていた。継続的な作文指導の不足が原因ではないかと考えられる。</li> <li>漢字を読む力が弱い。漢字を書く形式のテストが主流であったためと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作文については、行事についての作文などを書く他に、授業の中で継続的に自分の考えをまとめて書く学習を増やしていく。</li> <li>文章の構成や語彙など、個別に抱えている課題にも対応していく。</li> <li>漢字学習については、習った漢字を日常の中で使うことを繰り返し指導していくとともに、音読の機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの活用を含め情報収集をする学習では、個人に限らず協働的に行う活動を取り入れていく。入手した情報をどのようにまとめ発信していくことが効果的なのかを、お互いの発表を見合う中で気付かせていく。</li> <li>既習事項を生かして、聞き取ったことを要点をまとめて書く活動も進めていきたい。</li> </ul>

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料から必要な情報を読み取る力が不十分であり、より多くの単元で資料を活用する場を設けるなど、この能力を伸ばすための指導が必要である。</li> <li>読み取ったことをノートにまとめたり、発表することが苦手であり、国語学習の応用として指導計画をたてることを考慮したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視聴覚教材などを活用し、実際に見に行くことができない内容も具体的に理解できるようにしていく。</li> <li>ノーカウント・モジュールの時間を活用し、調べたり、考えたり、発表したりする場と時間を設ける。</li> <li>発表の形態として、新聞やポスターなど様々な形式を取り入れ、分かったことをまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間や他教科の学習とも関連させ、資料を読み取る力を伸ばす。</li> <li>図鑑、新聞、インターネットなど様々な教材・教具を活用して調べ学習を行う。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災への備えや、水の学習などが、毎日の生活と深く関わっているという意識が不十分である。自分たちの問題として捉えられるような指導の工夫が必要である。</li> <li>資料を読み取る力、一般常識や知識が不足している。理解の基礎となる用語や仕組みなどを指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間、授業のはじめに、その学習において考えることや解決したいことをみんなで考え、問題作りをする。</li> <li>社会的な事象を自分たちの問題として捉えられるような資料や教材を開発し、調べる活動を通して実感をもって理解し、身近な問題として考えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決したことでおこる更なる問題についても、図書館の資料やパソコンなどで調べ、学習を深められるように支援していく。</li> <li>単元のまとめにおいて、新聞作りをさせることを通して、資料の活用、表現の技能を高める。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの生活との関連や結びつきについて考えさせながら、教科書や資料集、視聴覚教材を中心に学習を進めてきたが、児童にとっては想像しにくかったり、わかりにくい部分が多い内容であるため、理解が十分ではなかった。もっと身近な問題としてとらえられるような学習を展開する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題と自分たちの生活との結びつきをより深く考えさせるような課題提示の仕方やまとめ方を工夫していく。資料の読み取り方を再度丁寧に指導しつつ、資料から分かったことや言えることを全体で共有しながら、資料活用の力を高めていく。</li> <li>教科書や資料をよく読ませ、プリントなどを課して学習内容の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時事ニュースや学習に関連する新聞記事を適宜紹介し、話し合ったり、考えを書かせたりする活動を行っていくことで社会に関する関心を広げていく。</li> <li>地図を常掲し、特産品や名所と結びつけさせながら都道府県名と位置を覚えさせていく。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会科に対する関心・意欲がとても高いが、これは問題意識をもたせ児童が主体的に調べ解決していく授業展開を心がけている成果と考えられる。</li> <li>ICT機器を活用し、単元に関わりのある写真や動画、資料を提示することで、意欲を高めたり実感をもって学習を進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の都道府県や世界の国の位置や国旗などを忘れてしまっている児童が多い。日常から意識を高められるよう世界地図を掲示したり、世界地図を活用したりする授業を心がける。</li> <li>有効な資料の提示方法を引き続き学び活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その時代の中心人物について事前に調べ学習を行い、お互いの発表を聞き合う活動を通して、歴史的事項の理解を深めていく。</li> <li>共通の資料から読み取れることをもとに小グループで話し合い、考えたことをまとめ発表し合う活動を取り入れる。</li> </ul>

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の児童に、手指や具体物を使わずに、足し算、引き算の計算ができるようにする指導の工夫が必要である。</li> <li>文章問題の題意を正確に理解し、立式して正しい答えを出すことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算カードやプリントを活用して、10の構成の理解を定着させる。</li> <li>文章問題では、題意を捉えさせるために、具体物を用いたり、絵や図を描かせたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数タイムを活用し、学習内容の確実な定着を図る。</li> <li>加法(合併、増加)・減法(減少、差)の意味を明らかにして立式を説明したり、問題づくりをしたりすることを通して、題意を読み取る力を高める。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「長さ、かさ」の学習では、量感覚を豊かにするように、実際に 図る時間を多く設けた。効果はあったが、まだ十分とは言えない。</li> <li>「かたち」の学習では、知識の定着が不足しているので、視具体物と聴覚教材の更なる導入を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活に密着した算数が多いため、今まで同様、できる限り具体物を活用したり、実際にブロックや道具を操作したりすることによって、理解を深められるようにしていきたい。</li> <li>かけ算の意味をしっかりとつかめるように、絵や図、ブロックなどを活用して指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数タイムを活用し、1年生の学習内容の定着を図る。</li> <li>問題に対して、自力解決、友達へ伝える、全体へ伝えるの3段階で学習を進めていくことを基本の形とし、学習の定着をはかる。</li> <li>練習問題を解く段階では習熟の高い児童に発展的な課題を準備する。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項の定着度や問題の読解力、問題を自力解決する力に差がある。習熟度別学習を生かして、児童一人一人に合った指導方法を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した内容の反復練習をし、定着度の向上を図る。</li> <li>図の学習では、図を描いたり、具体物に触れさせたりして、形を再認識させる。具体物で理解を着実にさせてから抽象物へと発展させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数タイムでは、東京ベーシックドリルを活用し、既習内容の反復練習をすることで定着を図る。</li> <li>習熟度別学習では、自分に合った解決方法を考え、選び、活用して、基礎的な学習、発展的な学習に取り組む。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>3桁になるかけ算や、余りのあるわり算など、難易度の高い計算について、個別に対応できるの指導方法が必要である。</li> <li>分度器や三角定規の発展的な操作に習熟できる、適切な課題を準備・開発する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算力が定着するように、宿題や、授業の隙間時間に様々な計算のプリントに取り組ませる。</li> <li>分度器や三角定規の操作方法について、丁寧に時間をかけて指導し、定着をはかる。理解・習熟が難しい児童に対しては個別に指導すると共に、ステップアップ方式の課題を用意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数タイムを活用し、学習内容の定着をはかる。</li> <li>習熟度別のクラス編成によって、児童に合った内容の課題に取り組ませる。</li> <li>補充問題や発展的な学習を用意しておく。</li> <li>教員同士が連携を取り、どのクラスでもここだけは押さえないという、その時間の重点を明確に意識して授業を行う。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>桁の多い計算になるとミスが増える傾向がある。基本的な計算力を上げるとともに、例題にたくさん取り組ませる必要がある。</li> <li>既習事項の定着度や問題把握力、計算力の差が生じ、学習のつまずきにつながっている。復習の徹底が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項についての復習を徹底するとともに、新しく習ったことが確実に定着するよう反復練習を多く取り入れる。</li> <li>少数数制を生かして、個人差に応じた指導を工夫する。図や線分図を使って問題の意味をとらえさせるとともに、解き方を説明させる活動を多く取り入れる。</li> <li>視覚教材や具体物操作、実物測定などで量に対する感覚を高めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加減乗除の百ます計算で一桁の計算力を高めながら、桁の多い計算に取り組ませる。</li> <li>算数用語や基礎的な算数の知識として覚えなければいけない内容について、繰り返し復習をし、定着を図る。</li> <li>基本問題とともに、応用問題などにも適宜取り組ませている。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国平均を5ポイント上回っている問題が6割以上、僅かでも上回っているということなら8割以上という結果から、指導方法は概ね良好といってよいのではないかと考える。</li> <li>算数が苦手な児童の基本的な計算技能(特に分数)習熟に力を入れていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的に理解の難しい「百分率」や「単位当たり量」で全国平均を大きく上回ったところからも、教師が意識をもって指導に当たれば高い結果が得られることが分かる。今後とも、図や数直線、線分図などを使ったり、児童相互に考えを交流させたりすることで理解を深めさせていく。</li> <li>既習事項のドリル問題などを継続して行い、習熟が充分でない児童への技能の定着を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の初めほか、つまずきが予想される項目で適宜復習を入れながら授業を進めていく。特に、分数においては、分数の考え方や分母・分子の関係などの基本から短く、場合によっては丁寧に復習していく。</li> <li>習熟が充分な児童に対しては、6年間の既習内容からランダムに出題して、演算決定・立式ができるように図っていく。</li> </ul>

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物や昆虫の成長に興味・関心が高い児童が多く、実際に育てることによって、意欲的に学習に取り組めた。</li> <li>・観察カードに分かったことをまとめる活動には個人差があり、苦手な児童もいる。国語の発表の学習などと、関連付け改善ができるのではないかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物や昆虫の観察は、形、色、大きさ等、観察する視点を視聴覚教材を利用して指示を明確にする。</li> <li>・視聴覚教材等の活用で、児童の理科への興味・関心を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物や昆虫は、理科の時間に限らず、常に観察できるように環境を整えておく。</li> <li>・理科支援員と連携し、指導方法を考え、児童が興味関心をもって実験や観察活動に取り組めるようにする。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心を高める指導の工夫で、実験・観察に進んで取り組む児童が多い。</li> <li>・理解の程度に個人差があるため、活動の時間に差が生じてしまう場面が多くある。</li> <li>・電気の通里道の理解において、用語や仕組みなどを丁寧に確認しながら、指導していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験観察に進んで取り組む児童が多い。理解の程度の違う児童も周囲との意見交換を活発に行えるよう、まず自分で考える時間を確保し、その後ペアワークやグループワークを効果的に取り入れる。</li> <li>・電気の通里道の理解を深めるため、児童に応じたワークシート等を用意して、自分から学んでいけるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が苦手意識をもたないよう、理科支援員と連携をし、個別に対応できるよう相談・分担する。</li> <li>・実験、観察後の考察の時間を十分にとり、児童が自分から進んで考察したことのまとめを導き出せるようにする。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験を楽しみにし意欲的に取り組むが、学習内容の確実な理解につながっていない。論理的思考の個人差に対応した指導方法が求められる。</li> <li>・動植物に触れたり、星空を見るなどの自然体験が少ないため、実体験を多く取り入れる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象や地学、生命誕生などの学習では、理解や思考の手助けとしてインターネットや視聴覚教材、図書資料等を活用しながら学習内容の定着を図るとともに、なるべく実体験に基づいた学習を取り入れていく。</li> <li>・理科学習の流れを押さえた学習展開を行い、科学的論理的な思考の場を多く設けながら、根拠をもって考えをまとめていけるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室に動植物を置き、世話や観察を通して動植物への関心を持たせる。</li> <li>・自然体験や観察実験を多く取り入れたたり、自然事象に関するニュース等を取り上げたりすることで、科学的事象への関心を高めさせる。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決型の過程に則り授業を進め、結果・結果からの考察・まとめを行ってきたが、実験方法については、児童による自由試行については余り行っていなかった。このため、実験方法に対する理解や、なぜその実験方法を採らねばいけないかという思考が充分定着していなかったのではないかと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの問題解決型の進め方を残しながら、今後は、問題を検証するために必要な実験方法の策定にも力を入れていく。</li> <li>・実験方法の適否を児童相互で話し合う活動を通して検証すべきポイントや条件性著についての理解を深めるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元に関連した事象を教科書とは違う実験でも提示しながら科学的な現象のおもしろさを児童に伝えていく。</li> <li>・実験後の考察で出てきた各児童の新たな疑問にも、示範実験などで可能な限り答えて、科学に対する興味・関心を高めていく。</li> </ul>